

# すいゆう

横浜市水友会  
横浜市保土ヶ谷区  
宮田町一―五―七  
発行責任者 石井栄一  
Tel. 442-6954



写真提供 鈴木 祐一氏 芦ノ湖

## 迎春

### 会員拡大と事業の拡充に向け 運動の前進をはかる

一般社団法人 横浜市水友会

会長 石井 栄一



明けましておめでとうござ  
います。新たな年を迎え、会  
員並びにご家族の皆様におか  
れましてはご健勝にお過ごし  
のこととお喜び申し上げます。

第八波のコロナウイルス感  
染拡大が進行する中でも、規  
制対策は緩やかに解かれ、社  
会経済も動き出し、怖さと気  
の緩みが雑じり合う新年を迎  
えました。

水友会でも、1年の空白は  
ありましたが、昨年は「施設  
見学会」を実施し、会員交流  
を深めることが出来ました。

地域の居住者会や一部趣味  
の班でも活発な活動を展開し  
てきています。この間に、会  
員交流の中止という決断を余  
儀なくされる社会状況にあり  
ましたが、水友会運動の生命

線である会員交流の場につい  
ては、「毎年楽しみにしてい  
る」という声も多数寄せられ  
ており、会員交流の場が停滞  
することの無いよう情勢に  
応じた新たな交流の場の確保等  
に向けて努力します。

また、水友会受託事業につ  
きましては、民間事業者を対  
象とした入札、コロナ禍によ  
る郵送での入札書の提出もあ  
り、入札参加者が広がる中で、  
継続すべき受託事業にあって  
は大変厳しい事業環境となっ  
ています。

組織を維持・継続・発展さ  
せて行くことは、雇用環境の  
変化もあり、会員拡大も含め  
難しい時代へと移行してきて  
います。水友会の受託事業  
は、退職後の働く場の確保と  
して守り繋いできた事業であ  
り、移り変わりが速く時代の中  
で、会員拡大と事業の拡充は  
不可欠なものと位置づけなが  
ら、組織対応を進めてまいり

ます。

ロシアによるウクライナ侵  
攻や円安等を要因として、諸  
物価の高騰が続いています。

また、こうした戦火を背景と  
して、近隣諸国での軍事的脅  
威も増し、国内では軍備増強  
への動きが加速しています。

私たち高齢退職者の役割は、  
悲惨な戦争に導く政治の過ち  
を許さず、平和・人権・民主  
主義社会を次の世代に繋いで  
行くことにあります。

退職者の経済的生活基盤で  
ある年金、医療や老々介護問  
題等、少子・高齢化社会の中  
で、社会保障制度に関しても  
機能強化ではなく給付減や負  
担増に置き替えられてきてい  
ます。安心して暮らせる社会  
の構築に向けた運動も正念場  
を迎えているといっても過言  
ではなく、退職者組織として  
危機感を持ち運動を進めてま  
いります。

最後に、病と向き合い苦し  
まれている方やご家族の介護  
等でご苦労されている方など、  
様々な生活環境に置かれてい  
る会員の方々も多くいること  
とは思いますが、会員並びに  
ご家族皆様方のご健勝とご多  
幸を祈念申し上げます。



# 私たちの暮らしを守る現退の取り組みを

横浜水道労働組合 執行委員長 的場 信也

新年おめでとございます。横浜市水友会の皆様方におかれましては、健やかに新年を迎えられますことを心よりお慶び申し上げます。



私たちを取り巻く情勢は、コロナ禍のマイナス成長から回復を続けてきた世界経済から、ロシアのウクライナ侵攻や米中関係の変化などが不安定な国際情勢を生み、さらに欧米主要国ではインフレが進行し景気後退も懸念されています。引き続き、将来不安や生活不安のない安心社会の実現のため多くの仲間と共に得られる取り組みを現退一

致でできうることを進めてまいります。

また、本年は統一地方選挙です。地域の暮らしを守り、働く者・生活する者の立場に立った政治勢力を拡大するために、組織の総力を発揮できうる環境整備につなげていきます。どうか本年も平穏で良き年となりますようご祈念申し上げます。

今後、人口減少や施設更新費用の増大など厳しい経営環境が続く見込みですが、歴史ある横浜水道を確実に将来へ引き継げるよう、職員一丸となって事業を運営してまいります。

明けておめでとございます。日頃から、水道事業に対し、



横浜市水道局 局長 山岡 秀一

# 職員一丸となって事業を将来へ引き継ぐ

多大なご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。昨年は、4月に西谷浄水場の浄水処理施設の工事契約を締結し、再整備事業が本格化いたしました。また、10月には市内の給水装置工事審査窓口を集約した「給水工事受付センター」を開設いたしました。

水友会の皆さまには、引き続きのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。最後に、皆さまのますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

## 2023年(令和5年)横浜市水友会 新春の集い

日時 2023年(令和5年) 1月14日(土) 午前11時〜(2時間程度)

会場 ワークピア横浜 2階

会費 「おしどり・くじやく」の間 3000円(当日、会場にて徴収)

☆お体を大切になさってください。多くの皆様の参加をお待ちしております。

☆皆様からいただいた近況報告は、本号の別冊に掲載しています。(水友会事務局)

### 訃報

ご逝去を心からお悔やみ申し上げます  
都筑 正志 様 75歳  
令和4年10月11日

### 釣班

## 寒さのなか工夫したカワハギ釣り

2022年度カワハギ釣りを12月3日(土)に、久里浜夫婦橋際の山下丸にて開催しました。

当日は、今年一番の寒さの中、曇り空で、時には雨も混じり、日陰の席に入った人は、手もかじかむ中、アサリ餌を付けるときも、手がしびれる中での釣行となった。

久里浜沖から釣りはじめ、朝のうちには大型狙いですが、ミヨシ(船首)左舷で、タモ取りされたのは、近年中々釣れなかったウマズラハギの35cm位が出ました。一番の特徴として、底には外道のアタリが多く、そのなから本命カワ

ハギを釣ることを各自が工夫をすることになりますが、上げ潮の時間帯に下げ潮の二枚潮があり、中々ペースが乗らない様子でした。

竹岡沖に移動後、中型の割と良いカワハギがぼつぼつと釣れました。

当日は、竿頭15枚から3枚の中小の混じりとなる中、3枚重量勝負です。優勝は、杉本和人氏(768g)準優勝は木下辰雄氏(705g)第3位は、水上隆太氏となりました。多くの人に参加して頂き、感謝します。(藤井)

釣班の写真は、4面に掲載



# 城ヶ島周辺を巡るハイキング

## 横須賀・三浦地区居住者会

秋のハイキングは、曇り空の中、11月5日(土)に石井会長他横須賀・三浦地区居住者会・水友会ハイキング班のメンバー14名の参加を得て、実施されました。

午前10時に京急三崎口駅に集合し、最初の目的地である頼朝ゆかりの場所、椿の御所(大椿寺)に向け出発、三崎口駅からバスに乗り三崎東

岡バス停で降車、その後、徒歩にて椿の御所に到着、休憩後、急坂を登り、城ヶ島大橋を徒歩で渡り、上から白秋碑を見て、ひたすら歩き、12時に昼食場所の安房崎灯台に着。灯台広場のベンチに陣取り、東京湾を往來する船、遠くに房総半島や伊豆大島を眺めながら、気持ち良い空気の中で、ワインで乾杯し、昼食

となりました。



2022.11.5 水友会横須賀三浦地区居住者会・ハイキング班城ヶ島を訪ねて

十分休憩し、13時に馬の背洞門に向け出発、急な階段を降り、馬の背洞門を見て、砂と岩の海岸線を歩き、城ヶ崎灯台前を経由し、15時前に城ヶ島バス停に到着。15時発のバスに乗り15時30頃に三崎口駅前の懇親会場に到着、最初にビールで乾杯し、17時頃まで、楽しい会話で盛り上がり、充実した1日となりました。(白杉敏幸)



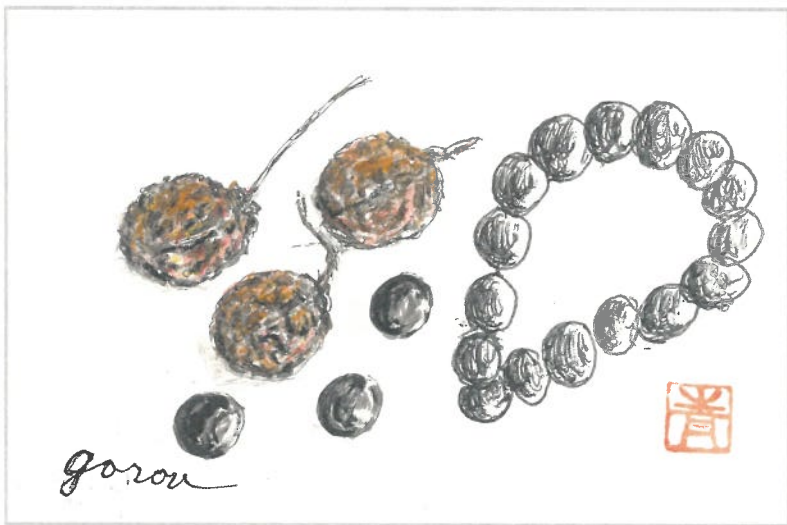
## 「無患子」

### (むくろじ)

この暗い世相の中で、せめて自分自身の健康保持のために、食の改善・体重の減量に1万歩を目標に散歩を継続している。

無患子との出会いは、勤務の傍ら、昼休み時間帯に歩く川沿いの散歩コースであった。ふと気づくと道端に、見た事の無い、何か焦げ茶色の「ウズラの卵」に似た木の実が落ちていた。何の実か分からず、持ち帰り同僚に聞くが答えは出ず、黒玉はそのまま机の片隅で出番を待つこととなった。

数日後の散歩、木の実を拾ったその場所には、茶色の樹皮が破れ、真っ黒な玉が顔を出しているのを発見した。手に取ると何処かで見た記憶が蘇った。これは正月の羽根つきの黒い玉ではないだろうか? 同僚に尋ね早速調べると「無患子」という木の実であることが判明した。帰宅後、「無患子」と書く字に、何か心



gorou

が動かさるように調べ始めて見ると、この無患子の実は、仏教を開いたお釈迦さまが数珠にして身に着け、患いのある人に説法したとされています。このことから、古来より人々は、お釈迦様にあやかり、無患子の実を数珠や羽根つき玉等々に使い、疫病や患いからの無病息災を念じ、今日の現代社会まで変わらず繋いできたものであり、「この実」(無患子)に出会えたことに感動した。

また、この無患子の果皮は、石鹸の成分である(サポニン)が含まれており、古来より自然の石鹸として活用をされていたとのこと。偶然にも拾った「この実」が、人間社会の営みに深く関わってきたことに感銘した。

そして数日後、「無患子」の木の下に向い黒玉を80個ほど拾い集め、自宅にて硬い黒玉の工芸に転じた。硬く小さい球に苦勞しながらドリルドライバーで穴をあけ、数珠を4〜5人分造った。先人たちに倣い、家族や自分の腕に着け、無病息災を念じている。

(和田五郎)



麻雀班  
第4回大会  
丸保行氏  
嬉しい初優勝  
苦節6年

水友会麻雀班第4回大会は、11月26日に関内「緑の館」で20人の仲間が集まり、親睦・交流の楽しい1日を過ごしました。

最終結果は、1組目の闘いで丸氏がこれまでの好調さを

発揮して2万9千点のトップをとり計13万3千点と圧勝し、嬉しい初優勝を飾りました。

準優勝は4回戦までで2位だった岸氏が△5千点としのいで計5万4千点。3位は塚原美夫氏が4回戦まで7位でしたが、最後3万6千点の

トップで計5万点で逆転入賞しました。4位は栗原氏が計4万8千点、5位は藤井彰氏となりました。

なお、3回戦で塚原氏が大三元の役満を上がりました。

優勝・丸保行氏 今日は3回戦までは怖いくらいに順調でした。2017年に初めて参加して6年目にしてやっと優勝できました。最高です。

年間成績は、1位・栗原氏が4大会で2度の優勝。2位・

第4回大会成績

| 順位  | 氏名   | 得点      |
|-----|------|---------|
| 優勝  | 丸保行  | 133,200 |
| 準優勝 | 岸敏明  | 54,300  |
| 第3位 | 塚原美夫 | 50,100  |
| 第4位 | 栗原雄三 | 47,700  |
| 第5位 | 藤井彰  | 45,500  |

年間成績

| 順位 | 氏名    | 得点      |
|----|-------|---------|
| 1  | 栗原雄三  | 242,900 |
| 2  | 會澤賢治  | 216,400 |
| 3  | 馬場宇平衛 | 186,900 |
| 4  | 丸保行   | 145,700 |
| 5  | 藤井彰   | 114,200 |

年間成績は、1位・栗原氏が4大会で2度の優勝。2位・會澤氏が3大会で準優勝。3位・馬場氏は優勝1度と全てが8位以内。4位は丸氏、5位・藤井氏となっています。残り2大会となります。残りが、上位陣の残りの成績次第では逆転が可能なる範囲であり、まだまだ息を抜けない厳しい勝負が続きます。

ゴルフ班  
第37回大会  
川手恭之氏  
ハンデを貯め念願の初優勝

11月2日(水)、第37回大会が、小田原湯本カントリークラブで36人が参加し開催されました。

当日は秋晴れ微風の中、クラブハウス開場時間前から多くの参加者が玄関前に集合し、

一時のゴルフ談義で朝から盛り上がり、開場後支度をして開会式へ。前回優勝者の山崎順三幹事の進行で行われ、石井会長から「普段の練習成果を発揮し怪我のないよう楽しんでください」と挨拶。今年入会され初参加の下釜安広氏の挨拶後、山崎幹事からルール説明があり、9組がアウト、インに分かれのスタートとなりました。

コースは、打上げ、打下ろし、おまけにグリーンはよく管理され「傾斜、超高速」3パットは当たり前、筆者には超難しい。イライラしながらのラウンド中、時たま雪を被った富士山が綺麗に見える気分を入れ替えての午前のラウンド

でした。昼食休憩後「心機一転」、後半は気温も上昇し汗ばむ中でのラウンドでした。

この難しいコースで、80台でラウンドしたプレーヤーが6人も、驚きです。

ホールアウト後シャワーを浴び身支度を整え表彰式へ、全員揃い成績発表です。今回はハンデキャップを数年間増した3人の方が3位までに顔を揃える結果となりました。

第37回大会成績

| 順位  | 氏名   | グロス | ハンデ  | ネット  |
|-----|------|-----|------|------|
| 優勝  | 川手恭之 | 98  | 33.3 | 64.7 |
| 準優勝 | 佐藤隆男 | 95  | 29.3 | 65.7 |
| 第3位 | 長浜幸児 | 95  | 28.8 | 66.2 |
| 第4位 | 下釜安弘 | 82  | 15.0 | 67.0 |
| 第5位 | 伊澤康之 | 82  | 14.8 | 67.2 |

優勝は、インコースで猛チャージをした川手恭之氏、準優勝は同じくインコースで猛チャージをした佐藤隆男氏、3位は固くまとめた長浜幸児氏となりました。

優勝者の川手氏は、ハンデに恵まれ、久しぶりの100切れで優勝できました。準優勝の佐藤氏は、参加できるのは、御殿場方面だけ、良い打ち納めが出来ました。3位の長浜氏は、パットが良かった。

今回の開催は、2023年3月29日(水)、千葉方面での開催を確認し解散となりました。(T・W)



木下氏 杉本氏 水上氏